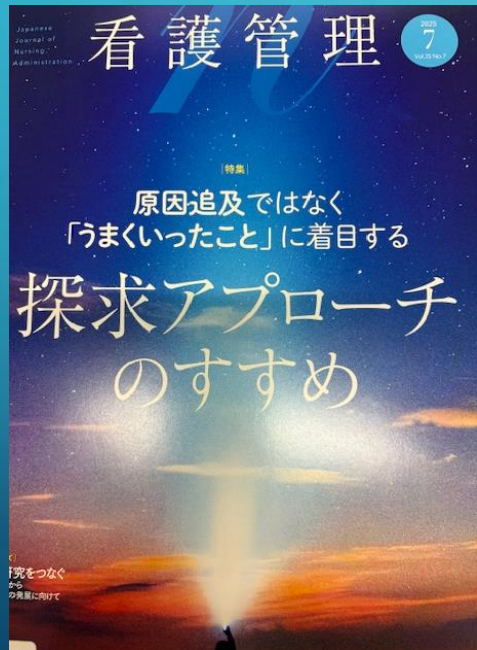


ワークショップ

探求アプローチのすすめ

—前向きなインシデントレポートの活用—



医療安全においては長らく、エラー発生時点から過去にさかのぼって原因追及を行う、いわば「分析アプローチ」が主流でした。

しかし、原因特定を目的としたヒアリングによって、報告者と安全管理者の間にネガティブな感情が生じたり、対策のためにマニュアルが増えたりと、現場の負担増につながるが多々あります。

「探求アプローチ」は、エラー発生後の「発見」「報告」「対応」のプロセスに着目し、原因追及ではなく「うまくいったこと」を共有し、既存のルールやマニュアル、システムの再評価を行います。本アプローチは看護管理(医学書院)7月号に特集されました。

講師:長谷川剛(泉大津急性期メディカルセンター)

日時:11月8日 17時10分～18時10分 第10会場

内容:講義と事例紹介(含:参加者提供の事例検討)